

搖らぐ 安全神話

東京電力が柏崎刈羽原発の設置申請時に周辺海域の断層評価で犯したミスをはじめ、多くの失態を見抜けなかった安全審査。国は、その検証に欠かせない議事録を保管していなかった。世界最大の原発集積地の同原発で設置の妥当性を最初に検討した1号機の部会議事録が、なぜ存在しないのか。原因を探ると、国の無責任さが浮かび上がる。原発の安全審査を担う原報社に届いた通知書がある。1号機を審査した「1

消えた議事録

にあり、各分野の専門家が
詳細な検討を行っていた。原子力委から審査業務を
引き継いだ安全委は議事録
がないため「少なくとも現
時点で振り返って当時の審
査状況を知ることはできな
い」と検証が困難な事実を
認める。

しかし、120部会の事
務局を務めた旧科学技術庁
の元職員一人は、国の答弁
を明確に否定する。「議事
録がないはずはない。担当
者が責任を持って記録して

■別部会は保存

だつた塚腰勇(六九)。事務局にいた武山謙一(五七)も「議

その一つ、四国電力伊古原発（愛媛県）2号機を担当した「121部会」の議事録を見ると、耐震安全性をめぐるももきちんと保管されているのだ。

「国に反省なし」

隠ぺい
ツクを立
ないこ
か。審
証拠が
いから

を疑う。「後のチエ逃れるため議事録がとにしたのではない検に問題があつてもなければ批判されな

く」と語る。
過去を省みない国の姿勢
は、非公開という安全審査の在り方に如実に表れている。

元職員「ないはずがない」

住民側、国隠ぺい疑う

検証・設置審査

はがれたベル

<7>

宿題として残ったというのを記録した。部会と分科会

事前に取っていた。あるいは東京電力柏崎刈羽原発1号機を審査した「原子炉安全

東京電力柏崎刈羽原発1号機を審査した「原子炉安全

塚腰の記憶は鮮明だ。「事務局は議事録に、こういうの議事録が存在しないこと質疑応答があり、この点が専門審査会第1-20部会」を云ふる通知書

